

院内各部門の現況

皮膚科活動状況

名寄市立総合病院皮膚科医長 高橋 英俊

私が初代の固定医として昨年10月に当病院に赴任して、はや半年が過ぎようとしています。外来業務はそれまでは旭川医大より週に3回の外来出張のみおこなっていましたが、10月以降は週に1回大学からの出張を含めて、火・水・金は午前及び午後、月・木・土（第2、4週は休診）は午前のみと、まだまだ至らない点がありますが、ある程度患者サイドからのニーズに応えられるようになりました。名寄という地域性から、当科外来は1日約80人前後の患者数をかぞえ、市内はもとより南は士別から、北は天塩、幌延方面からも受診されることがままあります。患者構成は季節により若干の変動はみられますが、他施設と同様に湿疹、皮膚炎群、白癬、疣贅などが大多数をしめています。最近の特徴としまして、やはりアトピー性皮膚炎が増加しているように思われます。特に難治性の成人型および一部のマスクミなどに惑わされ、適切な治療を受けず重症化したアトピー性皮膚炎などに直面し治療に窮することがあります。また、周辺部に大規模な酪農地帯をかかえていることより家畜から感染したと思われる体部白癬が比較的多く認めます。現在は乾癬、アトピー

性皮膚炎などの特殊外来は開設していませんが、将来的には必要ではないかと考えています。

皮膚科病棟は4階西ナーステーションに5床を有し、第一内科、脳神経外科との混合病棟となっています。入院患者の構成は、帯状疱疹、熱傷などが多く、大学病院でみられるような乾癬、湿疹などは患者がなかなか入院治療を希望しないことより極めて少ない状況です。従って、稼働率も大体40から60%となっています。

手術は毎週火・木曜日に1月に8～10件の外来および入院手術を行っています。内容は主に皮膚良性腫瘍などの単純切縫ですが、現在まで数例の皮膚植皮術、及び局所皮弁形成術なども行っています。また、当科において陥入爪に対して再発が少ないフェノール腐食法を行っています。当病院においては他科にまわるケースが多く他施設に比べ少ないものとなっています。

最後に、なにかと至らないことが多い私をサポートしてくださいました佐々木婦長をはじめとする4西のスタッフ、外来の中野、加藤、津隈さんに深謝いたします。（高橋英俊先生は平成5年9月旭川医大皮膚科へ転任。後任は小池且弥先生。編者注）